

巻頭言

日本油化学会制定「基準油脂分析試験法 2018 年増補・改訂版」刊行!!

日本油化学会 規格試験法委員会委員長 遠藤 泰志



この度、2度目の規格試験法委員会の委員長を仰せつかることになりました。同委員会では、油脂および油脂原料の評価・試験法の標準化及び普及事業として、油脂及び油脂製品の製造、品質管理及び試験研究に使用される試験・分析の基準となる方法を定めている「基準油脂分析試験法」の制定や改廃、刊行を行っています。「基準油脂分析試験法」は、1956年にはじめて刊行され、1971年に全面的な改訂を実施した後、1996年、2003年と改訂され続けてきました。その後、時代のニーズや分析機器の発達に伴い新しい試験法が開発されると共に、時代に合わなくなった試験法の見直しをし、大幅に改訂しました「基準油脂分析試験法 2013年版」を刊行しました。この2013年版につきましては、私が前回、規格試験法委員会の委員長に就いたときの仕事でしたが、それから5年が経過しました。しかし、分析技術の進捗はとどまることがなく、その後も規格試験法委員会では、新たな分析技術を基準油脂分析試験法に反映させるべく、新規試験法の探索と、既に登録されている試験法の見直し作業を行って参りました。その結果としまして、山岡前委員長のもと、基準法2項目(2.4.5-2016「トリアシルグリセリン2位脂肪酸組成(酵素エステル交換法)」, 2.4.14-2016「2/3-MCPD脂肪酸エステル, グリシドール脂肪酸エステル(間接分析-酵素法)」), 推奨法2項目(奨6-2017「モノアシルグリセリン及びジアシルグリセリン(キャピラリーガスクロマトグラフ法)」, 奨7-2017「魚油中の2/3-MCPD脂肪酸エステル, グリシドール脂肪酸エステル(間接分析-酵素法)」), 参考法1項目(参2.2.2.2-2016「短鎖脂肪酸を含む油脂の脂肪酸組成(キャピラリーガスクロマトグラフ法)」)を、基準油脂分析試験法として新たに追加することができました。また、「油脂原料及びその脱脂物」の記載内容につきましても軽微な見直しを行い、2013年版の2018年増補・

改訂版として皆様にお届けする運びとなりました。さらに2018年増補・改訂版には、基準油脂分析試験法の国際化への取り組みとして、2013年版基準油脂分析試験法の英訳版(抜粋版)を2013年、2015年に続いて改訂した第3刷(基準法50項目、推奨法7項目、参考法3項目)をCDとして付録にしております。

このように、2018年増補・改訂版ではかなりの増補と改訂を行っていますので、この機会に新しい基準油脂分析試験法を是非ともご活用下さいませようお願い申し上げます。

規格試験法委員会では、これからも油脂や油脂食品の取引や流通、販売に必要な商品の安全性や品質を確保する情報を得るための試験法の開発に積極的に取り組んでいきたいと考えております。今年度は、次回の基準油脂分析試験法の改訂を見据えて、まず油脂原料の試験法の見直し作業を始めると共に、併せて新規試験法の探索に着手する予定です。もし「このような試験法を作って欲しい」、あるいは「この試験法を基準法あるいは推奨法にしたい」などのご要望がございましたら、遠慮なく規格試験法委員会までお知らせください。皆様のご要望にできるだけ応えたいと考えております。また、試験法を「基準法」にする際には複数の機関による合同試験が必要となります。日本油化学会会員の皆様には、是非とも合同実験にご参加いただきますよう、ご協力のほど、お願い申し上げます。

最後に、2018年増補・改訂版の刊行にあたり、ご協力くださいました規格試験法委員をはじめ、試験法企画小委員会委員、並びに合同実験にご参加いただいた方々をはじめとする関係各位にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

(東京工科大学 教授)